

## 発育基準グラフの使われ方やわかりやすい表し方とに関する検討

高石昌弘（大妻女子大学人間生活科学研究所）  
高野 陽（東洋英和女学院大学、日本子ども家庭総合研究所）  
神岡英機（養神小児科医院）  
川井 尚（母子愛育会 愛育相談所）  
衛藤 隆（東京大学大学院 教育学研究科）  
小林正子、田中哲郎、加藤則子（国立公衆衛生院 母子保健学部）

全

研究要旨 母子健康手帳のグラフの活用状況については、使っているのは(ごく)一部の保護者であり、小さく産まれた等、問題背景がある場合に頻用している状況が分かり、それをふまえての提供の仕方に関心が持たれた。従来の母子健康手帳の発育グラフの10~90パーセントイルの帯を除き、3及び97パーセントイルの線のみで表す表し方について、健診現場の市町村保健婦に意見を聞いたところ、不要な不安を軽減する効果があるという意見を得た。

### A．研究目的

乳幼児身体発育調査結果に基づく母子健康手帳のグラフは、子どもの発育状態の把握のために作られているが、これが実際どのように活用されているものか、よく分かっていない。グラフの表し方に関しては、ニードにあった表し方については、さまざまな試みがなされている。たとえば、図2に見られるような、3パーセントイルと97パーセントイルの2本の線で示した場合、あるいは図3に見られるような増加量を加味した試み等がそれである。

これらの使われ方や、よりよい表し方に関する課題について、必要な情報を収集するには、実際に母子健康手帳を使用する保護者に直接接する立場の市町村保健婦から有効と考えられる。この観点から市町村保健婦に対し調査を行ったので報告する。

### B．研究方法

首都圏にあるベッドタウンとしての性格の強い市（人口22万）の母子保健を担当している保健婦7名に質問票を送付し回答を求めた。調査期間は平成12年1～2月、保健婦の経験年数は、3年未満から10年以上と、広く分布していた。調査内容は、母子健康手帳のグラフが保護者にどう使われているか、表し方をどのように改善していったらよいか、に関してであり、具体的には保護者のうちどのくらいのものが使用しているか、使用している保護者の背景や条件、正常域を2本

の線で表した場合の利用上の問題、正常域を増加量を加味した表し方をした場合の利用上の問題について問かけ、自由記載により回答を求めた。

### C．結果

質問と、それに対する回答（自由記載）は以下の通りである。

1．母子健康手帳の発育グラフはほとんどの母親が計測値を記入するなどして使っていますか。どの程度の母親が使っていますか。

- ・ほとんど使っていないのではないかと
- ・どれくらい使っているか把握していない（2名）
- ・3歳児健診までは見る機会があるが、それ以降はみる機会がほとんどないので、時期等を考慮せず回答していいかどうか考える
- ・一部が使っている
- ・約半数が使っている

2．発育グラフが活用されるのはどのような場合が多いと思いますか。母親がまめな性格、未熟児で産まれた等不安がある場合など、思いつくことを自由に書いて下さい。

未熟児で産まれた場合、それも、2000以上など、余り小さくない未熟児の場合によく使っているような気がする

- ・第1子
- ・発育で心配のある児
- ・低体重児及び巨大児
- ・発育（体重、身長）のアンバランスがある児

- ・ 早産児
- ・ 障害児
- ・ 専門家（医師、助産婦、保健婦等）が活用を指導した場合

- ・ 母親が真面目、神経質、関心が高い
- ・ 母親に育児不安がある
- ・ 両親の体格が小さい
- ・ 母乳、離乳食等食欲に心配のある児
- ・ 育児に余裕がある人

3. 母子健康手帳のグラフは現在は図1のような、3,97パーセントの線と、10から90パーセントの帯からなっています。諸外国では、図2のように、3,97パーセントの2本の線で表される場合も多いです。このように表した場合、どのような感じを受けますか。正常と見なされる範囲が広がったようで不安が減るだろうとか、細かい評価がしにくくなって使いにくいとか、思いつくことを自由に書いて下さい。

・ 現在の親は比較的マニュアル世代で、数値にとられることが多い。自分の子供が他の子供に比べてどうなのかということに関心が高い。成長曲線を判断するのに細かい評価は不必要なことが多く、正常とみなす範囲が広がるように見えるので、不安が減る人も多いのではないか。

・ 見た目の印象で、大きい、小さいが明瞭なので、気になる母親もいるかもしれない。

・ 特に問題がないのではないか

・ 10～90パーセントがない方が見やすいし正常の範囲としてわかりやすい

・ 帯は帯なりに意味があるが、一般的にはこの中にはいつているべきと印象づけてしまう気がする。

・ グラフの利用の仕方、見方等について説明文がもう少し丁寧な方がよい

・ 全体の中での位置や伸び方を確認するには、わかりやすく混乱をさけられる

・ 90パーセント以上及び10パーセント以下でも問題のないケースの不安は軽減される

・ どのくらいの位置なのかがよくわからなくなり、細かい評価がしにくい

・ 他児と比較することが少なくなり、その児なり

の成長がみやすい

4. 母子健康手帳のグラフを使用する上で、計測値が線の間に入っているかいないかに過敏にこだわり母親が不安になることも多いと言われています。また、発育評価の上では計測値自体よりも計測値の増加量により注目すべきであるとも言われます。このような考え方から、図3のようなグラフを作ってみました。

下の方の斜線の並びは、3パーセント近辺に位置し、その傾き是对応する月齢の増加量の正常下限に対応します。上の方の斜線の並びは、97パーセント近辺に位置し、その傾き是对応する月齢の増加量の正常上限に対応します。これに幾つかの計測値をプロットしてこれと対照すると、現在の母子健康手帳のような表現の場合よりも、線の間に入っているかに必要以上にこだわることが避けられ、むしろ増加量が適切かの方に目が向けられることが期待されると考えますが、利用する母親にとってこの図は難解でしょうか。

やはり母親にとって分かりにくいとか、ある程度ねらった効果は期待できるのではないかと、思いつくことを何でも良いですから、自由に書いて下さい。

・ 趣旨的にはよいグラフだと思うが、利用のしやすさや見やすさという点では現行のものの方がよい

・ これを使うならば、説明文もより具体的にしないと理解は困難である

・ 母親にとっては難解だと思う

・ 線をまたがってところで発育評価をすると、余計にわかりにくいのではないか

・ このグラフを使うとすれば、医師、看護婦、保健婦、助産婦等が、健診や訪問先で使えるように別に作った方がよい

・ 下線の3パーセントの部分の傾きが、必要な最低の増加量ということの理解は難しいかもしれない

・ 専門職が判断する上では、傾きが明らかになるのでよいと思われるが、97パーセントの傾きより増加する子供は1歳まではとくに多いと思われる

- ・正常の上限という説明は最善ではないように思う
- ・このグラフでよいと思うが、50パーセンタイルの曲線を1本引いてもよい(曲線に沿って平行に増加することが、ひとつの目安になる)
- ・グラフを見ただけでは、斜線の並びの意味がわかりにくい
- ・グラフを理解して使用すれば、他児と比べることなく児の発育評価がしやすい
- ・その月齢毎の増加量(その月齢で描くべき曲線)が明確になるので評価はしやすくなるが、増加量が気になり頻回に計測する母には斜線の傾きにかえってこだわってしまう恐れもある

#### D. 考察

母子健康手帳のグラフの活用状況については、住民に直接接する市の保健婦にも十分把握できない面があった。また、すべての保護者が活用しているわけではなく、活用する場合は、リスクがあったり、これまでに何らかの問題のある児である場合が多い。基準の算出のもととなるデータは、ほとんどごくふつうに生育している児であるため、小さく産まれた児など、むしろ専用の基準を

用いるのが望ましいようなケースが主にこの発育基準を使っているという矛盾が導き出された。どのように使用上の説明を付け、あるいはどのように対応してゆくかが今後の課題である。

発育グラフを、3及び97パーセンタイルの2本の曲線で表す方法については、ほぼ肯定的な反応が得られた。今後の表し方として、検討していても良いだろう。一方、増加量を加味した表し方については、わかりにくい等の反応が多く、実用にはまだ至りがたいのが現状であることが分かった。

#### E. 結論

首都圏の某市の母子保健担当保健婦に問い合わせたところ、母子健康手帳の発育グラフは、問題や不安のある例や、母親が神経質であったり関心が高かったりする場合によく使われていた。3及び97パーセンタイルの2本の線で正常域を表すやり方にはおおむね肯定的であり、増加量を加味した表し方は否定的な見解が多かった。